



◇ その店は夜になるとライブハウスとなる。誰でも演奏のとりこになった。

中学、高校時代に音楽をたしなんでいたがサーフィンをするようになって遠ざかっていた。それが東京・赤坂のある店にランチでたまたま訪れたことをきっかけに、4代目になってから再びギター演奏のとりこになった。



クレディセイフ企業情報社長 牧野 和彦氏

夢は単独バースデーライブ

あるわけではないのでMCでごまかすこともある。

ギターに再び触れるようになってからの大きな違いはオリジナル曲を作るようになったこと。フォークソングを中心に10曲ほどあり、動画投稿サイトにも公開している。

歌詞には少しこだわりがある。例えば「メール」だったら「手紙」と言い換えるように、歌詞にカタカナ語を使わないようにしている。今は英語と日本語が混ざった曲が多いが、個人的にどちらかにしたいという思いを込めている。

東京と福岡との行き来でなかなか練習できないが、月に1、2度ボイストレーニングの時間を確保している。トレーナーからは「本番は練習の6〜7割出せたらいい方だ」とアドバイスを受けるが、自分なりにはもっと上達したい。

よく行くライブハウスではマスターの声かけ一つで即席のライブが始まることもあり、実践で腕を磨く機会になっている。仕事での肩書に関係なく知らない人同士との新たな親交につながるのも、音楽という共通点があるからだ。

今後、単独でのバースデーライブをやってみたいの思いもある。ただ、そのためにはさすがに練習を重ねなければならぬ。

(福岡市博多区上呉服町1の8)

▲ ライブ独特の緊張感を楽しむ牧野さん